

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立西唐津中学校
-----	------------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・昨年の保護者アンケートからは、客観的におおむね良好な結果が得られた。PTAや地域からの協力や理解が大きく、生徒もそれに応えようと努力する姿が徐々に増えてきた。職員も「出番・役割・承認」のサイクルのもと、生徒指導主事を中心として、自己肯定感を高める開発的生徒指導についての研修を重ねながら、生徒の指導に一丸となって取り組んでいる。学力向上については、来年度に向け課題が残った。PDCAサイクルを機能させ、さらに学力向上についての研修を重ねる必要がある。、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習については特に課題が多い。家庭学習の充実のために保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAと連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。また道徳を中心とした心の教育にも今後さらに重点を置いて進めていく。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p><b>自他の「いのち」を尊び、自立し貢献できる生徒の育成</b></p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p><b>1 学力の向上 2 生徒指導の充実 3 人権意識の高揚 4 働き方改革の推進</b></p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全職員による共通理解と共通実践</li> <li>○基礎学力の向上に向けた授業実践</li> <li>○家庭学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上</li> <li>○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合を70%にする。</li> <li>○各テスト前に2時間以上家庭学習した生徒の割合を60%にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイプランの記入について共通理解を図り、記入の時間を確保する。</li> <li>・授業の中での復習(小テスト)の時間の確保</li> <li>・24の日(ノーマディアデー)での呼びかけを有効に活用する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイプランを提示し、共通理解を図ることができたが、それについて振り返りの時間を十分確保することができていなかった。3学期に改めて研修会を開く予定である。</li> </ul>	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上</li> <li>○いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み、事実対処等)について組織的対応ができていと回答した教員が95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TTによる授業を組むことで、生徒の声をひろい、思考を深めたり、心の寛容に気づいたりする。</li> <li>・生徒が様々な意見を出しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・いじめの発覚・認知時の連絡・連携体制を整える。</li> <li>・いじめに気付く力を身に付けるための研修会を年間1回以上開催する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ともに全職員で道徳の授業に当たり、TTによる授業ができています。</li> <li>・3年生は「サンキュウワリー」と称して、感謝の取組を行ったり、異学年などおして行事への感謝のメッセージを送るなど、思いやりの心が深まる取り組みがなされている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳に関するアンケート(道徳の授業で考えたり、人の意見を聞いたりして、心が豊かになったと思う)において肯定的な回答をした生徒は87%で、生徒自身が、自分の生活を良くしていくという気持ちの変化を実感したり、行動に移し始めていた。</li> <li>・各学年でのTTの授業はもちろんのこと、細目に計画を見直しながら、授業を進めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内や学校内のあらゆるところに心の教育につながる掲示物があり、学校における人権教育に対する意識の高さを感じた。</li> </ul>	・道徳教育推進教師
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</li> <li>○体位・体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上</li> <li>○朝食を食べる割合90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育講演会やおさかな教室等を活用して食への関心を高める。</li> <li>・各学年1回は学活の時間に食育指導を行う。</li> <li>・体力テストの結果をもとに、体育の授業で補強・補充運動を取り入れる。</li> <li>・学期の初めに毎回、体力テストを実施し、体力の向上の伸びを把握させ、体力向上への意識を高めさせる。</li> <li>・健康への意識が高まるよう工夫する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、予定していた講演会やお魚教室が中止になったので通信等を利用して関心を高める手だてを工夫した。</li> <li>・1年生では、各学年学活の時間に食育指導を行った。</li> <li>・「健康に食事は大切である」と考える生徒は89%で目標を達成することができた。</li> <li>・朝食を食べる割合は、ほぼ毎日朝食をとる生徒は90%で目標を達成することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合は89%であった。</li> <li>・朝食を毎日食べる生徒・ほとんど食べる生徒は90%を超えていた。朝食喫食率は目標に達しているが、食事内容に課題が残る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、予定していた講演会やお魚教室が中止になったので放送等を利用して関心を高める手だてを工夫した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の健やかな成長には、食生活は大変重要です。来年度も朝食をしっかりとって、授業や部活動に集中して頑張れるよう、家庭と協力して取り組んでほしい。</li> </ul>	・食育・給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限(月45時間、年間360)時間を遵守する。</li> <li>●働きやすい職場のためのラインケア、セルフケアの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定。</li> <li>・部活動休業日の設定と確実な実施。</li> <li>・会議のペーパーレス化、文書等の共有化での会議、事務の効率化を図る。</li> <li>・毎朝の教職員への声掛けと健康観察を心掛ける</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定はしたが、夏休を除く6カ月の時間外勤務の一人平均45時間の上限順守ができなかった。</li> <li>・週2日を休業日と設定し、全部活動が確実に実施ができた。</li> <li>・ペーパーレス化による会議、事務の効率化を目指し、ある程度、時間内に終了できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日に定時退勤日を設定したが、ほとんどの職員が退勤できていない状況であった。また年間を通して時間外在職時間の上限を遵守することができなかった。</li> <li>・月8日の部活動休業日については、1年間全部活動が完全実施できた。また日曜日の休業日も確保できた。</li> <li>・会議のペーパーレス化については8割の職員が実施できたと回答した。それにより、会議の時間短縮や事務の効率化をある程度図ることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の勤務状態を聞けば心配になります。先生方が元気でないと教育活動は充実しません。今後も働き方改革を積極的に進めてください。また制度そのものが変わらないと、進まない面があると強く思います。</li> </ul>	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				◎志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標をもって主体的に活動できる生徒の育成を目指したキャリア教育の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活に関するアンケートで、「学校生活や部活動で目標をもって活動している」と回答した生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業講話や職場体験学習、進学説明会等の計画的な実施</li> <li>・キャリア・パスポートの活用</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策で体験活動に制限がかかっていたため、職業講話や職場体験学習の実施はできていないが、3年生を対象とした進学説明会は計画的に実施することができている。</li> <li>・キャリア・パスポートを用いて毎学期目標を設定し、振り返りを行う時間を各学年で確保することはできている。</li> </ul>	
○特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の特別支援教育に対する意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫を、各自4つ以上実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫の例示。</li> <li>・特別支援教育に関する研修の実施。</li> <li>・ケース会議の実施、情報共有。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期中に特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫例を7項目程度提示し、取り組みやすいものから実践してもらおう働きかけた。授業参観や教師同士の情報交換を観察したところ、工夫を各自4つ以上実践するという目標に対し、取り入れている場合もあれば受け入れられていない場合も見られ、取り組みに温度差がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによると、特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫を各自4つ以上実践するという目標に対し、十分達成または概ね達成と回答した教員は約2%である。決して低い数値ではない、とは言え、前年度より10ポイント以上減少した。あらゆる場面で配慮やUDの機能を取り入れた実践は「わかる授業」に結びつくことを理解していただけのような情報発信が必要であったと言えらるかもしれない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の意識の高さに感心しました。今後もぜひ研修を重ね、充実させてほしい。</li> </ul>	・特別支援学級担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・1月の保護者アンケートからは、今年度も客観的におおむね良好な結果が得られた。PTAや地域からの協力や理解が大きく、生徒もそれに応えようと努力する姿が増えてきた。特に「あいさつ」については職員、生徒、保護者の肯定的な意見が昨年度より大幅に増えた。職員も「出番・役割・承認」のサイクルのもと、生徒指導主事を中心として、自己肯定感を高める開発的生徒指導についての研修を重ねながら、生徒の指導に一丸となって取り組んでいる。学力向上については、授業に臨む態度は向上しているものの、結果として表れず、来年度に向け、課題が残った。PDCAサイクルを機能させ、さらに学力向上についての研修を重ねる必要がある。、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習については中学校区で特に課題が多い。家庭学習の充実のためには、保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAとさらなる連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。また道徳や人権教育を中心とした心の教育にも今後さらに全職員で重点を置いて進めていく。</p>
----------------	---